

Q-0207 コンクリート舗装の道路では、埋設管工事が難しい のではないですか？

一般に、コンクリート舗装の工事では所定の強度が得られるまでの養生期間が必要となるため、アスファルト舗装に比べて交通開放までの期間が長くなる。そのため、これまでの埋設管工事などライフライン工事が頻繁に行われる区域では、補修しやすいアスファルト舗装が主として用いられてきた。しかし、近年は無電柱化など共同溝の設置が全国的に進められている。国土交通省の調査によれば、無電柱化率は全国で15%に達しており、埋設管工事による交通規制の頻度も減少しているといえる。

東京都区内の坂道に適用されたコンクリート舗装の実態調査結果によれば、調査した418件の内、ライフライン工事の埋め戻し跡のない舗装が14件、コンクリートで埋め戻されていた舗装が344件（一例を写真1に示す）、アスファルトで埋め戻されていた舗装が60件であった。コンクリート舗装のライフライン工事の埋め戻しは、その85%できちんとコンクリートによる埋め戻しが行われており、コンクリート舗装のライフライン工事に伴う埋め戻しが難しいという傾向は窺われなかった。

また、近年の技術開発により、交通開放までの期間を1日に短縮できる早期交通開放型コンクリート舗装(1DAY PAVE)もNETIS登録されている。さらに、交差点への適用では、交差点内を分割して舗設するなどの対応策により交通規制を最小限に留める工法も行われている。



写真1. コンクリート舗装のライフライン工事の埋め戻しの一例